

第10分科会 公開保育 認定こども園 かいけ心正こども園

環境構成を入口にする活動をめざして ～造形活動を通して～

岡山大学大学院教育学研究科教授 大橋 功 先生

ねらい

子どもが主体的に遊びに関わることができる環境構成について、参加者と共に意見交換をすることで、取り組みや改善の方向を明らかにしていく。

日程

- 9:00 米子コンベンションセンター前 出発
- 9:30 かいけ心正こども園着・園内見学
- 9:45 公開保育
- 10:40 公開保育内容説明・大橋功先生講義
質疑応答
- 11:30 かいけ心正こども園 出発
- 12:00 米子コンベンションセンター前 到着・解散



環境構成を入口にする活動をめざして～造形活動を通して～

研究主題（主題設定理由）

本園の造形活動では、子どもたちのわくわく・ドキドキする気持ちを大切に、のびのびと自由な発想で取り組めるような導入や関わり方の工夫を行ってきた。活動を始める前に保育教諭が導入をする際、子どもたちは保育教諭の導入よりも、準備物やいつもと違う環境の様子を見ているだけで、「はやくやりたい!」「楽しそう!」とわくわくしている様子が見られた。

そこで、活動内容によっては、あえて保育教諭が“言葉による導入をする必要があるのか”ということに疑問を持つようになった。そして、子どもたちの「やりたい!」「やってみたい!」「楽しそう!」という気持ちが高まっている時に、そのまま活動に入っていくことができないか、そのために保育教諭は何をすればよいのかを、昨年度より異年齢でのコーナー遊びを行う中で考え、実践してきた。

実践してきた中で、言葉による導入を行わない場合は、保育の「環境設定」をどのように行うかが大切であることに気付いた。そこで、子どもたちが実際に環境を見て、自分で遊び始め、主体的に遊びが展開していけるような、子どもの動線を踏まえた素材・材料の置き方について考えていくことにした。また、コーナー遊びを通して、子どもたちが自分で考え、選ぶ力も育んでいけたらと思っている。

【昨年度・1学期のコーナー遊び 振り返り】

- ・環境による導入を効果的にするための環境構成の見直しや工夫が必要ではないか。
- ・3・4・5歳児の縦割りグループで、3つの保育室を使用し、コーナー遊びを行なったが、保育室が区切られていたことで、他のコーナーの様子を見ることができなかった。
→ホールで、3コーナーをまとめてすることで、他のコーナーの様子を見たり、コーナー同士の統合も見られたりするのでホールで活動することがよいのではないかと。

研究内容（環境による導入を効果的にするための環境構成の工夫）

【スタンプ遊び】



- ・机のどこからでも取りやすいように置く。
- ・他の人の作品や行為に目がいくような環境作り。
- ・スタンプした紙を自分で貼ることができて、誰にでも見えるように飾る場所を用意する。
- ・前回よりスタンプの種類や素材を増やす。



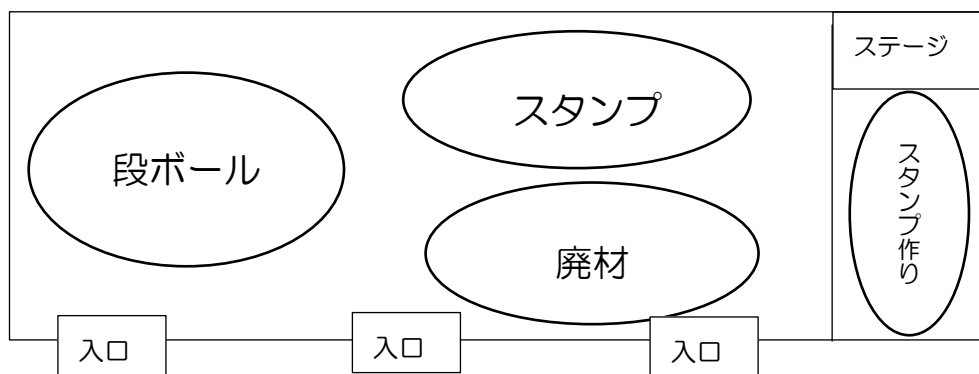
【スタンプ作り】



- ・材料や用具がどこからでも取り出しやすい環境作り。
- ・自分で作ったり、作ったもので遊んだりする楽しさを感じられる環境作り。



活動場所：ホール 《各コーナーの場所》



【段ボール遊び】



- ・様々な大きさや厚さの段ボールを用意。
- ・子どもたちのわくわく感を引き出すように積み上げたり、並べたりと置き方を工夫する。
- ・段ボールに切り込みを入れたり、カラーセロファンを貼ったりして、仕掛けを作っておき、遊びが広がるようにする。



【廃材遊び】

- ・イメージが広がるように廃材の種類を増やす。
- ・用具をあらかじめ置き、自分で選んで使用できるようにする。
- ・保護者の方の協力により集まった廃材を置く。
- ・子どもたちが選びやすいように、種類別に分けておく。
- ・周りの友達の作品や行為に目がいくような環境作り。



研究成果（まとめ）

- ・様々な形や大きさの材料や子どもたちが日常的に使い慣れている用具を出すことで、子どもたちのイメージや発想が広がるようにした。また、子どもの主体的な活動を導けるよう置き方も工夫した。
- ・前は、ホールや保育室に、各コーナー遊びごとの仕切りを置いたために、他のコーナー遊びの様子がわかりにくく、遊びや活動がそれぞれのコーナーごとに終始し、遊びの広がりが少なかった。今回は、前回の反省をいかして、仕切りをなくし、ホールで全コーナーの遊びを出すことにより、どこで何をしているかわかりやすく、自分の興味のあるコーナー遊びに自由に行き来することができた。さらに、活動の経緯が見えるため、自分の製作したものを別のコーナー遊びに持っていき、遊びを広げて展開する姿も見られた。
- ・活動の様子を見てみると、異年齢でかかわっている子や各学年でかかわっている子など、活動の中でコミュニケーションを取りながら楽しんでいる姿も見られた。



【今回の言葉による導入】

- ・各コーナーの紹介
- ・段ボールカッターの使い方
(年長組のみ使用)



ホールの前で、子どもたちと10からカウントダウン！



質疑応答

- ・「材料にワクワクするような環境が必要である」ということだが、実際に準備物を見せていただいて、いろいろな形の段ボールや大きさ、厚さが置いてあり、自分自身も作りたい！という環境構成であった。
- ・子どもたちが、友達と考えて話し合いながら何かを作っている姿を見て、“表現”って楽しいなと改めて感じた。
- ・ホール全体を使って、ダイナミックな環境であり、材料もたくさん用意してあったので、子どもたちと同様、わくわくする活動であった。
- ・子どもたちへの導入について、各コーナー遊びに分かれて遊んでいたが、前もって子どもたちがコーナーを選んだのか、また保育教諭が決めたのか。
⇒導入は、最低限のこと（コーナーの紹介・段ボールカッターの使い方：年長組のみ使用）を話して、ワクワク感やドキドキ感を誘うように、ドアの前で10からカウントダウンをして、子どもたちはホールの環境に出会わせた。その環境に出会って、子どもたちが好きな所に行って遊んでいた。



講師の話：大橋功先生（岡山大学大学院・教育学研究科 教授）

【指導案の工夫について】

- ・よくある活動の流れ（子どもの姿・援助・環境構成）が書かれているシナリオのような指導案は、保育教諭の中でイメージができていて、子どもたちを持って行きたい方向へと誘い込むような活動になりがち。
- ・かいけ心正こども園の造形の指導案は、子どもの姿に視点をおき、何を楽しんでいるのか、心の働きを通してどう成長しているか、子どもが造形活動するときの内側に何が起きているのかなど、活動主題4つの軸（視点）を大切にしている指導案である。

- A・・・材料や技法との“出会い”や行為を楽しむ
- B・・・見立てて遊ぶ
- C・・・想像の世界で楽しく遊ぶ
- D・・・おもいを伝える



- ・たとえば、初めて絵の具と出会う時、すぐにそれで何かテーマを与えて描かせても、まずは絵の具への興味や楽しさから、絵の具遊びに走り、ぬたくってしまったたりする。それであれば、テーマなど与えず絵の具そのものを楽しむ遊びに徹する方が良い。
⇒おもしろい・（変化が）楽しい ⇒発見・驚き ⇒没頭していく ⇒絵の具のことが良くわかる
になるとともに探求心や自己効力感、自己肯定感が高まり育っていく。
- ・今回の活動は、Aであるが、材料や用具は使ったことがあるものでも、このような環境との初めての“出会い”になっている。

【「絵の手紙」の取り組みについて】

- ・ A5サイズの紙に、自分の描きたいもの、伝えたいことを自由に絵で描き、“保育教諭に描いた絵のお話をする”という活動をしている。これは、保育教諭が子どもたちとコミュニケーションをとり、子どもたちの“伝えたい”気持ちや意欲を育てる上で効果がある。3歳児からのこの経験の積み重ねは、子どもたちが絵を描くときに、伝えたい思いを持ち、自発的に描き出すことができるきっかけになっている。

【造形遊びについて】

- ・ 造形遊びは、美術を教育に取り入れているのではなく、子どもが思う存分に遊びこんで、心が開放され、目の前の材料や行為を楽しんだもの、この結果できたものである。そこで、大事にしたいのは、そのプロセスの中で子どものどんな育ちがあったのか、子どもの姿をしっかりとらえていくことである。造形活動の中には、卒園までに幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）が、ほとんど見られる。また、子どもたちが、つくり、つくりかえ、つくる活動を通して生み出された「作品」を通して、その姿を捉えていくこともできる。

【Who Are You? あなたはだれ?】 **材料と技法との出会いや行為を楽しむ**

- ・ 今回の公開保育では、子どもたちに材料を与えるのではなく、誘うのではなく、渡すのではなく、“置く”ということに重点をおいた活動であった。ただし、置き方によっては、子どもたちの活動が変わる。また、異年齢での活動は、お兄さんやお姉さんがやっていることをまねたり気づいたりするという姿が見られる。そして、同じ場所（環境）にいること＝コーナー遊びをホールで全員集まって活動にしたことによって、Who Are You?の遊びの中で、「やりたい」という気持ちにさせるものは何だったのか？気持ちが高まる環境はどのようなことだったのか？課題を見つけ、次回に一つ一つ改善していくようにしている。このような子どもの姿に視点をおきながら、改善するカリキュラム・マネジメントを通して、より良い保育を追求し続けて欲しい。



参加者からのアンケートより（抜粋）

- ・ 子どもたちを身近に感じ、楽しそうにしている姿が見られた。
- ・ 園全体が造形に力を入れていて、日々の生活の一部になっていると感じた。
- ・ 他園の保育をみる機会は少ないので、よい機会が与えられた。
- ・ 雨の日以外、室内での造形活動をしないので、園内での遊び込みの姿が見られ参考になった。
- ・ 造形遊び、しっかり素晴らしい環境の中で、のびのびと集中して活動している子どもたちにたくさんのことを学ばせてもらった。
- ・ 造形活動について、自分の考えが変わり、環境が導入になることがわかった。
- ・ 導入を必要としない環境ありきの保育にすばらしさを感じた。

